

平成 28 年 11 月 25 日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 笠原 久恵 様

議会報告会	1 班
班長 中村	彰男
野田	宏規
森田	洋一
阿部	治正
森	亮二
徳増	記代子
秋間	高義

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

- 1 日時 平成 28 年 11 月 13 日（日）  
午前 9 時 40 分～午前 11 時 40 分
- 2 場所 森の図書館
- 3 欠席議員 なし
- 4 参加者数 12 人（内、他班の議員 2 人、職員 1 人）
- 5 報告内容

（1）各議員からの報告（発表順）

■野田宏規議員

先の第 3 回定例会では、以下のようなやり取りがありました。

### 【インクルーシブ教育】

主な、一般質問内容は以下。特別支援学校の小学部・中学部の開校を働きかけては？「特別支援教室」の実施を県に働き掛けては？児童・生徒・保護者の不安に対応するため、児童発達支援センターの利用実態を確認し、利用促進しては？

特に、森の図書館周辺地区で言うと、東深井小学校に「聞こえの教室」があり、その存続も問われているため、これからの課題である。

### 【外国人誘致】

主な、一般質問内容は以下。外国人観光客へ強くプロモーションするため、動画や SNS を活用しては？東京オリンピック・パラリンピックのための整備をその後の誘致に活かしては？また、外国人選手たちを流山本町や利根運河等に案内しては？

特に、森の図書館周辺地区で言うと、利根運河や運河水辺公園もあるため、外国人選手団の誘致に繋げていたい。

## ■ 秋間高義議員

私は、防災対策についての一般質問では、いつ起きてもおかしくないと言われている大震災による電気火災を防止するため「感震ブレーカー」の普及推奨を平成 27 年と平成 28 年の 6 月議会で訴えて参りました。その結果、広報の防災関連特集の中で「感震ブレーカー」の普及を呼びかける記事が掲載され、現在、出前講座も行われています。また、流山市のホームページには、通電火災の防止として感震ブレーカーの説明が掲載されました。

東日本大震災における原因が特定された火災の内、過半数が電気火災でした。

大地震による火災は、同時多発的に起きるので消防署や消防団では、対応仕切れません。

（電気火災とは、地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧した時に発生する火災のことで、停電が復旧したときに散乱した燃えやすいいものが電気ストーブなどの熱により火災が発生したりすることです。また、感震ブレーカーとは、地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止める装置で、電気火災は、感震ブレーカーを設置することで防ぐことができます。

感震ブレーカーの種類は、様々なタイプがありますが、簡易タイプは、おもりやバネの力を利用してブレーカーを落とすタイプで、電気工事が

不要で、インターネット等で 3,000 円程度で購入でき、誰でも簡単に設置でき、繰り返し何度でも利用できます。しかし、個人が設置して出火を防止しても、隣、近所からの出火の延焼を防ぐことはできません。(自治会等が集団で設置する事により、防火の効果が高める事ができます。)

そこで、今後も、感震ブレーカーをまとめて購入・設置した自治会に対して流山市が、助成や補助を実施するよう求めてまいります。

教育行政についての一般質問では、教員経験から子どもの読書習慣を推進するため「子ども読書活動推進計画」を策定するとともに、学校図書館司書を全小中学校に配置すべきと訴えて参りました。その結果、来年の早期に「子ども読書活動推進計画」が策定されることになりました。また、モデルケースとして西初石小学校と西初石中学校に学校図書館司書が配置され、今後、図書館教育の充実に向け、配置拡大が検討されることになりました。

以上。2点について、ご報告させていただきました。

#### ■ 阿部 治正 議員

2013 年に子どもの貧困対策法が議員立法として、全会一致で制定され、14 年末には都道府県が貧困対策の計画を策定している。次は基礎自治体である流山市の取り組みが求められている。

背景には、子ども貧困の深刻な実態が明らかになったことがある。国の調査で 6 人に 1 人、1 人親世帯では 2 世帯に 1 世帯が貧困状態に置かれている。日本の貧困ラインは 2012 年で 2 人世帯は手取り 173 万円、4 人世帯で 244 万円だが、それ以下の収入の人たちが増大している。経済大国と言われる日本でこういう現実が広がっていることに行政は注目し、対策を講じなければならない。

流山は都心などに通うサラリーマンの町という事で、貧困とは無縁に思われている向きもあるが、決して他人事ではない。流山でも就学援助を受けなければ学校に通うことが難しい小学生が 7.3%、中学生は 9.7% に達している。

私は市議会の中で、まずは流山市の実情を知るための調査が必要と主張してきた。既に幾つもの自治体が自主調査を行っている。次に全庁的な取り組みの体制づくりも重要だ。学校教育部、子ども家庭部だけで取り組める課題ではなく、各部局横断的な体制が求められている。

#### ■ 森田 洋一 議員

昭和40年生まれの50歳です。

毎回一般質問しながら、それでも落選して、浪人していたこともあるため、職のない実態、報われない努力などよくわかります。

元々、ホテルでゲストリレーションマネージャーとして欧米人相手に接客していました。現在、その経験を政策提言や日頃の活動にいかすようにしております。

流山本町や利根運河を中心へ外国人観光客誘致することに、今は力を入れております。

先月は、スペインの方を流山市内観光案内しました。スペイン語が対応できる市内在住コロンビア人に当初通訳を依頼したものの直前に仕事が入り、結局当日は、通訳を市内在住のブラジル人と私とで実施しました。ポルトガル語とスペイン語、大体7割程度は通じるようです。

計画的にものごとを企画することも、先ほどのような現場の臨機応変な対応も両方実施しております。

人生が楽しい、流山をそんな街にしたいと思います。

観光について詳しくは、後ほどのプレゼンで実施させていただきます。

#### ■ 徳増記代子議員

全国でも問題になっている保育園問題ですが、流山市でも国基準で146人が待機児童となっている。

流山市は、「母になるなら流山市」と、担税能力のある共働き世帯の誘致をしています。しかし、子どもたちを受け入れる保育園も足りない、今年4月に開校したおおたかの森小中併設校もH31年には13教室足りなくなることが明らかになった。学校も保育所も足りない、子どもが増えることが明らかなのに児童館増設は考えられていません。また、子どもの増加にともない保健センターで乳児健診ができなくなるのではないかと不安の声も聞いている。

就学援助制度の拡充については1項目が全会一致で採択されました。その内容は、就学援助は中学進学の際は一度、途切れてしまい、再度申請しなければならないのです。申請したのち、入学準備金が出るのは7月になってからなのです。そのため、進学時に準備する制服やカバン、ジャージや靴など揃えるのに間に合わない。

甲状腺エコー検査の助成事業はこれまでと全く変わらない答弁で、国がやることだからやらない、また、非婚のひとり親家庭の支援もやらない、これは非婚家庭でも寡婦控除をみなし適用をし、市民税や保育料に

直結するものです。TX 沿線の市がほとんどこの制度のみなし適当しています。しかし、流山市は沿線で適用しないのが、流山市だけただ1つの市になってもやらないという冷たい態度。

以上、福祉、教育に絞っての報告となった。

#### ■ 中村彰男議員

市議会議員活動の基軸は①災害（安心安全）に強い街づくり②祭事等を通じた人の交流と文化継承③農林商業の新たな取り組み④身近に感じる市政の4項目を念頭に様々な諸課題に取り組んで参りましたが、各般を聴聞する中で想定を越える智恵や時間、そして相応な費用捻出等が具現の障害になり未だ解消出来得ない処が多々あります。

私の地元、三輪野山地区では、今後、大きく発展するであろう江戸川新橋、おおたかの森公園整備等の諸問題に対処することが、重要であり、一人の議員では為し得ない事も自民党支部を始め市議会会派を共にする議員仲間とともに、多くの市民の方々との連携を図りつつ、何事にも、積極的に取り組んで参りますので、宜しくお願いいたします。

#### ■ 森亮二議員

##### < 議会活動 >

地方・地域を元気にするには、お金・人・権限が必要であります・

とくに1800弱ある市町村のうち、896市町村が消滅の可能性を指摘される中、地域独自でまちづくりを行っていくには、国や県が持っている権限を、基礎自治体である市町村に移譲に、地域や住民本位のまちづくりを可能にしていく必要があります。

国会の場でも1993年には衆議院・参議院による「地方分権を進めるための決議」を採択しており、2000年から地方分権一括法により分権政策が進められているが、なかなか進んでいない実情もあります。

そのため、まずは身近なものとして千葉県が持つ「旅券発給（パスポート）事務」の権限移譲を訴えてきました。5年間の取り組みを経て、平成29年3月から市内でも旅券発給を行うことが出来るようになります。そのような地方分権政策を現場である地方自治体から進める提言をしています。

##### < 議員活動 >

安全安心な地域社会をつくるために、消防団に入団しました。流山市では法律的に355名の消防団員が必要とされていますが、現在は40名近

い団員不足が生じています。また団員の高齢化も進んでいることから、仲間と一緒に自分自身も入団することで、皆様と安全安心の社会を一緒につくりあげることに取り組んでいます。

## (2) 地域課題についての報告

第13回流山市議会報告会（第1班：総務委員会）

～ 地域活性化の視点から見た北部地域の課題 ～

【テーマ：利根運河などの観光資源を利用した交流人口の増加に向けて】  
持論：国際化を絡めた北部地域（利根運河周辺など）活性化の可能性  
について

### ■今までの取り組みや実績について（近年の取り組み実績）

- ・近隣市と協力したウォーキングイベントを実施
- ・東京理科大学学生主催の「運河シアターナイト」※今年は夏、例年は秋に開催
- ・東京からのウォーキングサークルのコース（実施は1回のみ）
- ・運河水辺公園での「うんがいい！朝市」※毎月第四土曜日に開催（77回開催）
- ・利根運河交流館を利用した展示・イベント（NPO）
- ・運河畔を利用した歌舞伎を実施（2010年10月）
- ・運河駅橋上内に新設された三角スペースでの展示・イベント（NPOが企画）
- ・オランダの皇太子が来流（2010年9月）
- ・市民団体主催によるオープンガーデンイベントの中心地域（毎年5月に開催）

### ■将来的に実施可能なこと（提案）

・レンタサイクルを利用した市内周遊（レンタサイクルはNPO法人が実施中）

- ・運河の自然ウォークの拡大
- ・オランダに絡んだイベント



※春の利根運河畔の様子

### ■当面の課題

- ・流山本町や北部地域（江戸川台・運河）の交通ネットワークの強化
- ・観光よりも国際化の意味合いで、国際理解サポートセンターの集客力をあげる
- ・ボランティア任せではなく、商品化できる、個人や団体が活動資金を稼げるような仕組みをつくる
- ・運河駅橋上化後の便益性の検証
- ・森の図書館、老人福祉センターといった公共施設も、トイレ利用や休憩所として、観光に結び付ける
- ・自然資源の保護（新川耕地・斜面緑地・ホタルなどの生物）
- ・潜在的な観光資源を発掘する
- ・食事処や休憩所の更なる充実
- ・江戸川台駅の東西にある各商店街の活性化



※理科大生主催のシアターナ

## 6 意見交換内容

### （１）「議員からの報告」について意見交換

市民（美田） 感震ブレーカーについて。阪神淡路震災では3時間のちに火の手があがった。新潟や東日本大震災では教訓を踏まえていたので少なかった。ブレーカーを付けることが良いのは分かるが、しかし古い建物で付けると何万円もかかる。埼玉県の方では東電と協定を結んで、電気が切れても一軒一軒チェックしたあとOKだと東電が変電所で通電することになっていると聞く。流山市でも協定を結ぶことを提案する。

議員 大がかりな工事が不要な簡易なバネ式、おもり式の感震ブレーカーがあり、ネット販売だと3000円位。高齢者や身体の不自由な人は取り付けが難しいかもしれないが、火災被害は発生元だけではなくもらい火の被害もあるので、自治会などで連携し、また市としても推奨すれば、普及は一挙に進むと思われる。

市民（東深井A） 現役時代は市に対する関心持てなかった。今の若い労働者は大変。少子高齢化の中、高齢者に対する施設、認知症対策などが重要では。高齢者は税金払わないので流山には来てほしくないというのではなく、高齢者を大切にしてほしい。社会発展に貢献したのに配慮されないのはひどい。消費税問題の陳情が市議会に出されたが否決されている。年

金も下がる中で暮らしは厳しい。国で決めたから仕方がないということで簡単に否決しないでほしい。

議員 消費税問題は切実。パンなども値上げをした上に、形が小さくなったり、中のクリームが少なくなったりしている。

議員 高齢者とともに若い人も大変になっている。東電に勤めている女性が長時間労働の中で自殺した。認知症の問題も介護保険改悪の中で深刻化している。労働法制や介護の仕組みは国が決めた政策だから自治体ではどうしようもないということではなく、若者対策等でも自治体で活用可能な仕組みはあるのに使い切っていない。それらを最大限、ギリギリに活用をしていくことを市議会としても追求していきたい。

市民（江戸川台西） 月満つれば欠けると言われる。近未来の流山の構想が必要。流山の道路ネットワークが良くなったのは認めるが、江戸川台はさびれつつある。老夫婦しかいない。大きな住宅でも二階部分は使われていない。江戸川台西口は商店街も減った。地域から出た子どもたちが帰ってくれる政策など活性化が必要ではないか。

議員 流山市は住み替え制度、高齢者は駅前のマンションなどに移り、既存の住宅は若い世代に住んでもらうという制度をつくって1年半くらいたっているが、実績は上がっていない。空き家はアパートを入れると6000件。流山を出た人が子どもたちを自分たちと同じ環境で育てたいと思える良い教育環境作りに力を入れることが重要。読書、英語、ICTに力を入れるなど、戻ってきてくれる施策が必要。

議員 住み替え制度の認知度は高まっているが、手続きが煩雑、心理的な負担感などで腐朽していないと思われる。住居地を決める時の主導権は女性が持っているとしたら、女性に選ばれる仕掛けを作ることを考えて良いのでは。

市民（東深井） 親は一步下がるスタンス必要。親は駅近くのマンションに住んで子どもたちに家を引き継がせる。税制の面でも負担を下げる必要がある。子どもの時によい教育環境を保障し、愛着を持てる学校、人間関係、自然をつくるなどを仕掛けないとできない。仕事をリタイアすると閉じこもってしまいがちだが、外に出たい年寄りも多くいる。運動会や運河ウォークラリーなどは効果がある。地域にはこれまで知らなかったが良いところが多くある。普段は2キロくらいしか歩かない私がこの間は知らな



いうちに6キロも歩いていた。健康対策にもなる。そういう企画を議員から出して欲しい。

## (2) 「地域課題について」の意見交換

市民（東深井B） 運河駅から野田市に向かって利根運河を渡る手前、割烹方向に左折したあたりが、晴れの日が一週間続いても、路面が濡れた状態。そこで何度も自転車や歩行者が滑って転倒するのを目撃した。消防は個人情報という事で教えてくれないが、怪我人だけでなく死者も出ているのではないかと。早急な安全対策が必要だ。

市民（美田） 人口が増えて税収は増えているが犯罪が増えている。流山の犯罪数は去年を突破している。柏市では市長が先頭に立って取り組んでいる。議会でも議論をしてほしい。

市民（東深井） 本町の一茶双樹のあたりは道路が狭く、駐車場も大きいものがないが、もう少し整備できないのか。観光地でない、土産物屋もない、行ってどうするんだという、中途半端な感じだ。何とかした方がよい。運河の土手は桜しかない。四季を通して楽しめるカエデやモミジなどを植栽してはどうか。

議員 おっしゃる通り、人は増えているがお金を落とすところはない。野菜の直売所はあるが、土産物屋がない、本町にやってくるお客も、弁当とお茶を持っている。見るだけで帰っていく。地元で安く提供できるものを用意できれば良い。そうしないとリピーターは期待しにくい。

議員 川口の日光御成道街道はヒントになる。本町の歩くところは観光資源をどうするかに取り組んでいる。土産物屋も必要という議論も出ている。

議員 運河はめずらしい動植物がいることでもよく知られている。モミジはそうではないだろうが、生態学者などは川べりに大きな木を受けると生態系が崩れると心配している。

議員 江戸川には菜の花も植えられているが国交省との関係で難しい面がある。国交省は河川管理上の問題、土手が痛むなどの理由で勘弁してくれという見解なので、宿題になる。

市民（東深井B） 日常生活の中に運河が入っているが、運河は現状のままでもよい。桜の時は桜、対岸には曼珠沙華、冬や秋も緑が一杯で、四季の変化に合わせてカラフルだ。

市民 外来種の黄色いコスモスがあるが、好みもあるが昔ながらのコスモスがよい。

市民（東深井B） 曼珠沙華は縁起が良くない花と言われることがあるが、そんなことはない。モグラ除けに効果があり、根を生やすと土手を強くする。菜の花は土手の保全によくない。

市民 他の地域から呼び寄せることが重要。よそでは電柱がない地域もある。そこまでやるのは大変だけれど、近藤勇の陣屋跡などもあり、どんどん宣伝して活性化をしてほしいし、流山の市民にも知ってほしい。

市民（東深井A） 本町が宣伝され注目されているが、運河も歴史的資産もあり注目されてきている。野田街道を挟んで流通センターと工業団地の造成や開発が進んでいるが、江戸川台から学園通りあたりにどれくらい進出してくるのか。市の考えは税収を増やすという事か、工業団地がよいのか、住宅地がよいのか、自然環境の保護はどう位置付けられるのか。市も自然保護を考えているようだが、水と緑と野鳥、住みよい流山、水郷的自然等々、税金を取りたいから工場誘致するというのではなく豊かな自然を是非残して欲しい。

議員 菜の花はモグラの天敵である蛇を巻き込んでモグラが増える。夏になると増えている。運河は野鳥が結構いる、野田にコウノトリの里、しょうゆも有名。これらと結び付けてプロモーションしていければ良い。

市民 理想公園は自然公園として整備すれば良い観光資源になる。

議員 理想公園は理科大のもの。公園の中の通路は車も通れるとなっているが、実際には狭すぎる。まわりの道は災害対策もあるので整備は必要だと思う。新川耕地は南北の土地の使われ方が違ってきた。物流倉庫がつくられた。自然環境という看板はたぶん市の手法で工場などが出てきたときに植樹するなどのことがよく言われる。湿地公園は地形的に難しいと思う。級有料道路の田んぼ側は残るので、考えていきたい。

議員 菜の花は土手の崩壊、モグラ、国交省は勘弁して下さいという見解。

市民（東深井C） 本町の客を運河に引っ張れないものか。バスの乗り継ぎなどは外から来た人には分からない。また江戸川を水運の場として利用できないか。災害時の物流の確保の方法としても意義があると思われる。

市民 運河は自然環境の面、歴史の面でポテンシャルがある。しかし南流山や柏からのアクセスは十分ではない。自動車交通網の整備、それによるアクセスという視点も必要ではないか。人が寄る場所がない。外からの人が立ち寄る拠点が必要。ビジネス面での誘致が必要。

市民（平和台） 地域の活性化、流山市全体の活性化をもっと考える必要がある。キッコーマンアリーナはオリンピック関連での活用、また外国人が泊まるホテル整備なども必要では。

議員 オリンピックでは流山市がオランダの卓球チームの事前キャンプとして利用される予定になっている。ホテルについては、おおたかの森駅北側の1ヘクタールの市有地の開発の中で計画されている。11月に始まる議会に関連議案も挙がってくる。総務委員会が担当だが、議案が通ればホテル出来、通らなければ計画はなくなる可能性もある。

議員 市も通訳の観光ボランティアなどを集める取り組みをしている。

## 6 所感

### ■ 秋間高義議員

今回の議会報告会では、議員報告や地域の課題などにたいして参加者全員から貴重なご意見やご要望をいただき、有意義な議会報告会となりました。誠にありがとうございました。

### ■ 阿部治正議員

市民の参加者は9名と少なかったが、それぞれ活発に発言をされ、大変に活気のある議会報告会となった。市民の発言は、議員の報告や市政についての質問というよりも、むしろご自身の意見を積極的に主張、提案される形となり、この点でも市政報告会の性格が変わり始めていることを感じ

た。市民と議員とが双方向で情報や意見を交換し合う場として、議会報告会をさらに充実、発展させていければ良いと考える。

#### ■ 徳増記代子議員

議会報告会に初参加のかたもいらっしゃいました。どこでも高齢化が進みまちづくりへの意見もだされ、真剣に既存のまちづくりを考えることが必要だと感じた。

#### ■ 中村彰男議員

議会報告会で市民との意見交換会が行われているが、市民は、行政懇談会と議会報告会の違いを分かっていないようです。

市民の意見のほとんどが要求、要望となっている。

議会報告会を続けながら、議会の問題と、行政の問題といったように市民の中でしっかり棲み分けが出来るようになるような議会報告会が開催されることが、大事だと感じた。